

【 研究主題 】

「できた」「わかった」を通して主体的に学ぶ生徒の育成 ～ESDの視点を踏まえた授業づくりと支持的風土づくりの適切な評価を通して～

【 学校教育目標 】

「生きる力」を培い 未来を創造する 生徒の育成



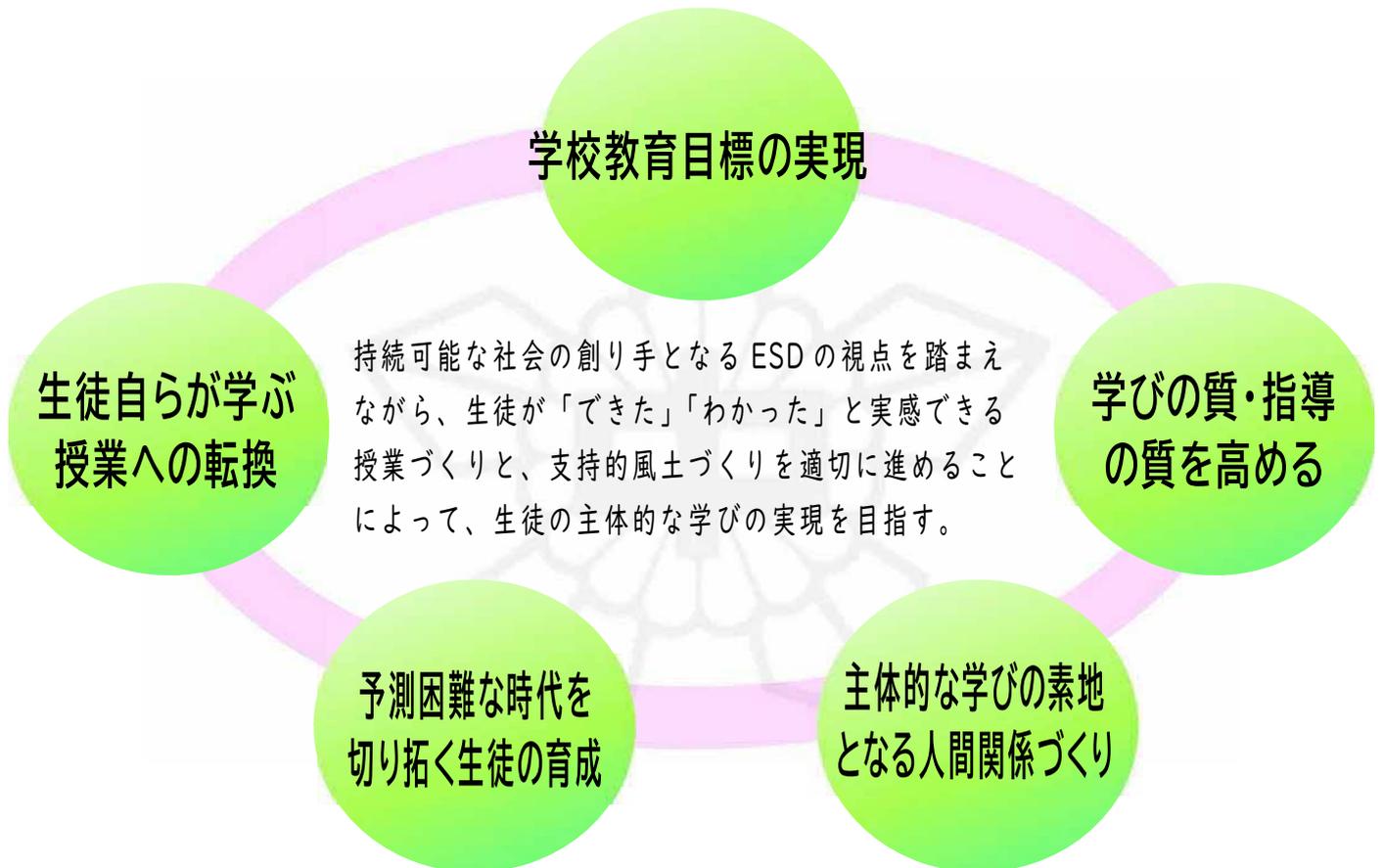
【 ESD (Education for Sustainable Development)とは 】

「持続可能な開発のための教育 (ESD)」は、まさに地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育です。(中略)

地球上で起きている様々な問題が、遠い世界で起きていることではなく、自分の生活に関係していることを意識付けることに力点をおくものです。地球規模の持続可能性に関わる問題は、地域社会の問題にもつながっています。だからこそ、身近なところから行動を開始し、学びを
実生活や社会の変容へとつなげることが ESD の本質であり、グローバルとローカルが結びつく
という感覚が重要となります。

■引用元：「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」
(文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会)





II 全ての教育活動を通じて育成を目指す資質・能力

A 課題を見出す力	E コミュニケーションを行う力
B 進んで参加する態度	F 他者と協力する態度
C 批判的に考える力	G 未来像を予測して計画を立てる力
D 多面的・多角的・総合的に考える力	H つながりを尊重する態度

本校では、国立教育政策研究所が示す「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を参考にし、ESDの視点を踏まえ、全ての学校教育活動を通して重点的に育成を目指す資質・能力（数値では測れない8つの資質・能力）を設定した。

この視点は、持続可能な社会の創り手となる「意識を持つため」と「自己の変容を自覚するため」の視点であり、教科等の枠を超えた「学ぶ意味」にもなる。

Ⅲ 本校の学力観（冰山モデル）と研究組織

生徒に身に付けさせたい学力と ESD の関連性、さらに各部会の取組を視覚化するために「冰山モデル」を作成した。まず、学力を「見える学力」と「見えない学力」に分類し「8つの資質・能力」を関連付け、研究組織に位置付けた。「見えない学力」は「見える学力」の素地となり、相互作用的に高まるとも捉えている。

見える学力（数値で測れる能力）

各学力調査の結果、定期テストの結果など、教科等の資質・能力を身に付けていくことで高まっていくと考えられる能力。

授業づくり部会

「見える学力」の
向上を目指す

すべての教科で取り組む共通実践

- ・学びにおける自己選択場面の設定
- ・考えを参照・共有するためのタブレット活用
- ・授業における生徒の学習状況を見取る工夫
- ・主体的な学びの素地としての学習規律の徹底

見えない学力（数値で測れない能力）

ESDの視点から「8つの資質・能力」として設定し、全ての教育活動を通して高まっていくと考えられる能力。（左ページ参照）

なかまづくり部会

学びの環境整備を行い、
「見えない学力」の向上
を目指す

支持的風土を育む共通実践

- ・南中わくわくタイム
- ・グループ・トレーニング、SST
- ・朝の会、帰りの会の取組

SA部会

（SA:サステナブル・アセスメント）
「見えない学力」を見え
る化し、向上を目指す

ESDの視点を踏まえた評価の共通実践

- ・キャリア・パスポート、学校行事とESDとの関連付け
- ・未来創造タイム、地域学校協働活動における評価

「見えない学力」の向上につながる全校での取組

探究的な学び「未来創造タイム」、教師と生徒の合同研修、全校集会

授業づくり部会の取組

授業づくり部会

「見える学力」の向上を目指す

【仮説1】

ESDの視点を踏まえて、主体的に学びを進めていく授業実践を行い、学習状況を丁寧に見取ることによって、生徒の学びの質が高まり、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

① ESDの視点を踏まえた単元デザイン

2 目指す生徒の姿及び生徒の実態

単元終了時の生徒の姿	
具体的な事象の中から観察や操作、実験などによって取り出した二つの数量について、事象を理想化したり単純化したりすることによって、それらの関係を1次関数とみなし、そのことを根拠として変化や対応の様子を考察したり予測したりする生徒。	
生徒が意識する学びのステップ【ESDの視点】	
ステップ1	1次関数の表、式、グラフのそれぞれについて、特徴を理解しようとしている。
ステップ2	1次関数の表、式、グラフを相互に関連付けて理解しようとしている。
ステップ3	1次関数の表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、問題を解決しようとしている。
【D 多面的・多角的・総合的に考える力】	
生徒の実態（単元目標につながる学びの実態）	

学習構想案には、SDGsのゴールのうち単元の内容と最も関連性が高いものを示し、8つの資質・能力をもとに「生徒が意識する学びのステップ【ESDの視点】」という3ステップを設定した。

② 主体的な学びに向けた共通実践

R7 菊池南中 授業づくりにおける共通実践	
共通実践項目	各項目における具体的な実践例
A 学びにおける自己選択の工夫（主語は生徒）	<p>〈単元デザインにおける工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて何を以てどう学びを進めていくか、方法を選ぶ。（学習方法） ・単元のゴールを逆算してどのような時間配分で進めていくかを選ぶ。（学習時間） ・学びを深めるために追究したいテーマを選び、課題解決に取り組む。（学習内容） <p>〈1時間の授業の中での工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて何を以てどう学びを進めていくか、方法を選ぶ。（学習方法） ・効果的に学習するために誰と課題解決を進めていくか、形態を選ぶ。（学習形態） ・個人の定着の状況に応じて、どのような問題に取り組むのかを選ぶ。（学習課題）
B 考えを参照・共有するためのタブレット活用（主語は生徒）	<p>〈1時間の授業の中での工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問や解決したいことなどを自由に提出し、単元の課題を設定する。（課題設定） ・ロイノートなどで友だちの考えを参考にしながら学習を進める。（課題解決） ・スプレッドシートなどで振り返りを共有して、自己調整に生かす。（振り返り）
C 授業における生徒の学習状況を見取る工夫（主語は教師）	<p>〈単元デザインにおける工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着状況を内容のまとまりごとに見取るため、意図的にまとめの時間を設定する。 ・1枚ポートフォリオなどを生かし毎回同じパターンでまとめることで定着を図る。 ・単元後半で定着を図るために、学んだことを生かして表現する場を設定する。 <p>〈1時間の授業の中での工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決場面で、授業ごとに座席表を用いて学習状況を確認し指導に生かす。 ・まとめる際に、キーワードを用いて自分の言葉で書かせ、教師が確認する。 ・授業開始40分にはまとめをし、残りの時間で定着問題に取り組むようにする。

R7 共通実践の振り返り（構想・省察の習慣化：「原本の学び」アクションプロジェクトより）							
項目	視点	評価(◎、○、△)					
		9月	10月	11月	12月	1月	2月
A	① 単元デザインにおいて生徒の自己選択場面を設定できたか。	△	○	○			
	② 1時間の授業の中で生徒の自己選択場面を設定したか。	○	○	○			
B	① 生徒が考えを参照・共有するためのタブレット活用ができたか。	○	○	○			
	② 単元デザインにおいて生徒の学習状況を見取る工夫ができたか。	△	△	△			
C	① 1時間の授業の中で生徒の学習状況を見取る工夫ができたか。	△	△	△			
	② 1時間の授業の中で生徒の学習状況を見取る工夫ができたか。	△	△	△			
月ごとの振り返り（記述）		学習状況を見取る工夫ができた。	ロイノートを活用した振り返り				
確認（研究部）		エスワット	見本が考えを共有する場面で活用した。				

全教科等で、様々な単元で実施できるよう表に整理し、教師が選択できるようにした。

振り返りシートを活用し、教師は授業のブラッシュアップを目指した。

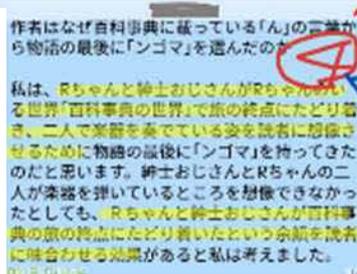
③ 授業の実践

共通実践項目 A 学びにおける自己選択場面の設定

共通実践項目 C 授業における生徒の学習状況を見取る工夫



ジグソー法を活用し、複数の資料から生徒がそれぞれの学びを深めるために必要な資料を、自分で考えて収集できるようにした。（社会科）



タブレット端末を活用し、提出された生徒の考えを即時チェックして共有することで、資質・能力の定着や学びの調整につなげることができた。（国語科）

生徒の意識調査で、特に高まりが見られた項目

質問項目	初期値	事後	差
授業で「なぜ」「おそらく」「やってみよう」「なるほど」「わかった」「できた」等を感じることができましたか？	89.1%	92.8%	+ 3.7%
学習課題や学習の手段、形態、課題の難易度などについて、自ら選択して学ぶ機会がありましたか？	86.1%	88.2%	+ 2.1%
タブレットを活用して他者の考えを共有したり、参考にしたりして自分の考えを深めることができましたか？	87.3%	90.3%	+ 3.0%

（初期値：R7年5月、事後：R7年11月 アンケート調査結果による）

なかまづくり部会の取組

なかまづくり部会

学びの環境整備を行い、「見えない学力」の向上を目指す

【仮説2】

ESDの視点を踏まえて、支持的風土の醸成など、安心して学習するための環境整備を行うことで、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

① 南中わくわくタイム



「南中わくわくタイム」と題し、班でクイズやゲームに取り組んだ。大切にしていることは、「自分の役割を果たすこと」「お互いの意見を認め合うこと」「協力すること」である。実施する内容は、なかまづくり部会から毎週提案を行い、新鮮な気持ちで取り組むことができた。また、学級委員会から「自分たちで南中わくわくタイムを実施したい」という意見があり、学級委員が提案、実施することもあった。

② グループワークトレーニング(GWT)・ソーシャルスキルトレーニング(SST)



各学年において、GWTやSSTを実施した。また、防災教育プログラムに取り組み、1年生は「災害時シミュレーション」、2年生は「竹ひごタワーづくり」に取り組み、協力して課題を解決する経験を積んでいる。

3年間を通して、「コミュニケーションを行う力」や「他者と協力する態度」、「未来像を予測して計画を立てる力」などの育成を図った。

③ 朝の会の「先見」・帰りの会の「1分間スピーチ」「ボランティアサービスタイム」

【1分間スピーチの様子】



朝の会では、先見の時間を取り入れ、1日の見通しが持てるようにしている。また、帰りの会では、1分間スピーチやボランティアサービスタイムを取り入れている。

【スピーチへの返しをする様子】



1分間スピーチは、スピーチに対する返しも大切に、「つながりを尊重する態度」の育成を図っている。ボランティアサービスタイムでは、机並べや窓閉めなど、自ら気づき、行動できるようにしている。

生徒の意識調査で、特に高まりが見られた項目

質問項目	初期値	事後	差
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか？	73.8%	80.1%	+6.3%
クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて提案していますか？	77.3%	81.0%	+3.7%

(初期値：R7年5月、事後：R7年11月 アンケート調査結果による)

SA部会の取組

SA部会

(SA:サステナブル・アセスメント)
「見えない学力」を見える化し、向上を目指す

【仮説3】

ESDの視点を踏まえて設定した資質・能力を適切に評価することにより、生徒が自ら目指す姿と現状を捉えることができ、主体的に学習に取り組むことにつながるであろう。

① 未来創造タイム(総合的な学習の時間)における指導と評価の一体化



合同会議では委員長と担当教員で打ち合わせを行い、年間計画を立案した。

令和7年度 菊池南中学校未来創造タイム 学びの記録シート

学習委員長 高橋 勇 担当 岡田 真

多岐にわたる資質 能力 A 深層を見出す力 B つながりを構築する態度

多岐にわたる学習 活動の状況 STEP1:タブレットを授業中に活用できる教員が身につけている。
STEP2:授業中のタブレットの活用が課題をもち、改善を語り、周りの人に使い方を伝えることができる。
STEP3:自分の考えを整理して発表でき、周りの人に伝えながら一人一人の能力を高めることができる。

項目	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
活動の状況													
評価													
コメント													
評価に 対して													

※本計画書はあくまで参考として活用してください。各学年ごとの状況に合わせて変更してください。
※本計画書の進捗状況は定期的な報告書の提出を義務づけてください。

委員会活動のステップ

STEP1 STEP2 STEP3

年間計画に合わせて活動し、「学びの記録シート」に振り返りを行った。

自分たちが設定した力が身に付いているのか自己評価を行った。3つの段階に分けることで基準を明確にした。

② キャリア・パスポートや学校行事における自己評価



5. 集団宿泊教室の全体を振り返って

進んで参加する態度 (◎ ○ △)

他者と協力する態度 (◎ ○ △)

つがいを構築する態度 (◎ ○ △)

私は集団宿泊の全体を振り返って進んで積極的に出来たと思える理由は自分から委員長になり、たり別長になり、しかも他者と協力することによって出来たし、1人でのつながりも大切に集団宿泊をわせたと思いは。

従来の教育活動をESDの視点で捉え直し、どのような資質・能力が身に付くのかを設定した。行事の振り返りのワークシートなどにESDの視点を取り入れて自己評価を実施した。

キャリア・パスポートでは、年度当初に8つの資質・能力のうち、自分自身が身に付けていきたい力を生徒自ら設定した。学期の節目ごとに自身の学び方や生活を振り返り自己評価を行った。

③ 地域学校協働活動における評価



地域学校協働活動では、未来創造タイムの活動を中心に据え、多くのゲストティーチャーに協力していただき、学びの機会を確保した。



地域の方々から生徒の学びの様子を評価してもらうことで、学びの状況を的確に把握することにつながった。

生徒の意識調査で、特に高まりが見られた項目

質問項目	初期値	事後	差
単元や題材を通して先生が示したESDの8つの力を意識して学ぶことができましたか?	83.0%	86.4%	+3.4%
8つの力を意識して自分の学びを振り返ることができましたか?	85.6%	87.0%	+1.4%
8つの力を意識して学校行事などに取り組むことができましたか?	89.9%	90.0%	+0.1%

(初期値：R7年5月、事後：R7年11月 アンケート調査結果による)

IV 成果と課題

(1) 学校教育活動全般の内容に関する生徒の変容【意識調査】

項目	初期値	事後	差
①あなたは単元を通じた学習内容や学習活動について、興味・関心等を持って学ぶことができましたか？	89.1%	93.5%	+4.4%
②あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか？	67.9%	69.9%	+2.0%
③あなたは学習の見通しを持って、粘り強く、自分の学習の進め方を振り返ったり、周りの人の意見を参考にしたりして学ぼうとしていましたか？	86.9%	90.8%	+3.9%
④学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがありますか？	90.4%	94.1%	+3.7%
⑤クラスのなかまたちと協力して学校行事などに取り組むことができましたか？	95.7%	96.1%	+0.4%
⑥将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか？	81.9%	82.0%	+0.1%
⑦学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか？	91.4%	92.5%	+1.1%

(初期値：R7年5月、事後：R7年11月 アンケート調査結果による)

(2) 生徒と交流した地域の方々からの評価【記述】

- 中学生と地域の方々を含めた取組が非常に素晴らしかったです。避難所運営体験をすることで参加したみんなの防災意識が高まったのではないのでしょうか。もし未来で災害が起きても皆さんの力で乗り越えられるかと思いました。
- グループワークでは生徒全員がコミュニケーションをとりながら取り組んでいたのが良かったです。積極的な発言もあり、スムーズに進行できていました。

(3) 今後に向けた成果と課題の整理

- ESDの視点を踏まえた授業づくりを行っていくことで、生徒は学習の見通しを持って、粘り強く、自分の学習の進め方を振り返ったり、周りの人の意見を参考にしたりしながら主体的に学ぶ姿が見られ、授業改善が進んだ。
- 地域学校協働活動を柱としたESDの取組は、特に「進んで参加する態度」、「コミュニケーションを行う力」、「他者と協力する態度」の向上に寄与した。
- 各教科の授業、学校行事、特活、総合的な学習の時間等が教科等横断的かつ有機的に結びつく、ESDを軸とした学びや取組が持続可能なものになるように計画等を整理し、再構築することが必要である。
- 様々な教育活動をESDの視点から振り返ることはできているが、評価方法や検証方法について、さらなる実態把握とアプローチが必要である。